

第4回 SusHi Tech Tokyo 2025 実行委員会

日時：令和6年11月1日(金)10:00～11:00

場所：オンライン開催

(次第)

1. 委員長挨拶
2. SusHi Tech Tokyo 2025の進捗状況について（報告）
3. 意見交換

実行委員出席状況

役 職	氏 名	所 属 等
委員長	ミヤサカ マナブ 宮坂 学	東京都副知事 【出席】
副委員長	ヨシムラ ケイイチ 吉村 恵一	東京都スタートアップ・国際金融都市戦略室長 【欠席】
委員	イワムラ アリヒロ 岩村 有広	(一社) 日本経済団体連合会 常務理事 【出席】
委員	スガハラ アキコ 菅原 晶子	(公社) 経済同友会 常務理事 【代理出席：福山様】
委員	セキ サトシ 関 聡司	(一社) 新経済連盟 事務局長 【欠席】
委員	コバヤシ ハルヒコ 小林 治彦	東京商工会議所 常務理事 【代理出席：長嶋様】
委員	ゴウジ トモタカ 郷治 友孝	(一社) 日本ベンチャーキャピタル協会 会長 【欠席】
委員	フジモト アユミ 藤本 あゆみ	(一社) スタートアップエコシステム協会 代表理事 【出席】
委員	ササキ ヨシノリ 佐々木 喜徳	(一社) スタートアップスタジオ協会 代表理事 【出席】

SusHi Tech TOKYO 2025

世界共通の課題である “Sustainable な都市を High Technology で実現する”

2025では、さらに多様なプレイヤーが集まり「成果につながる」出会いを創り出すため、以下の規模で計画



リアル参加重視

リアル4万人（ビジネスデイ3万人、パブリックデイ1万人）

オンライン 1万人

商談件数増に向けた取組

国内外のスタートアップ及びVC、海外都市、大企業等による具体的な商談が数多く行われるような場・仕掛けづくりを行う。

● 商談を促進する多様なスペースの設置

- ・一般チケット購入者が個別折衝可能な商談エリア 【大幅に拡充】
- ・VIPチケット購入者専用ラウンジ内のプライベートな商談スペース 【新設】
- ・参加者による交流やミニセミナー等ができるセミクローズドなネットワーキングエリア 【新設】
- ・カジュアルな打合せも可能な休憩コーナー

● マッチングアプリの充実

- ・出展者の一覧表示、属性・キーワードによる検索機能
 - ・参加者・出展者同士がコンタクトを取れるチャット・マッチング機能
 - ・商談スペースの予約・チェックイン機能 など
- 使い勝手の大幅な向上
(ユーザーやグローバルイベントに知見のある方にヒアリング予定)

● 商談に繋がるイベント・プログラムの実施

- ・海外都市のスタートアップと国内大企業が交流するネットワーキングイベント 【新規】
- ・海外VC等とLP出資に前向きな国内大企業等とのマッチングプログラム 【新規】

など

世界の国・都市パビリオンの拡大

SusHi Tech Tokyo 2024やTIBで築いたリレーションを活かし、様々な国・都市の参加を促す

SusHi Tech Tokyo 2024 実績

台湾



香港



イスラエル



フランス



スイス



SusHi Tech Tokyo 2025 での検討・調整状況

●世界の様々な国・都市に参加いただくため、幅広く声掛けを実施

＜現時点で参加に前向きな国・都市＞

アジア

シンガポール タイ
台湾 香港 中国 韓国 インド

欧州

フランス スイス イタリア ドイツ 北欧

中東

イスラエル UAE

オセアニア

オーストラリア ニュージーランド

●参加拡大に向けた施策

- パビリオン（64㎡）、ハーフパビリオン（32㎡）を選択可
- 帯同するスタートアップのミニステージ登壇枠や、大企業等とのネットワーキング機会を設定

SWITCHへの出展について

■日程：2024年10月28日（月）～10月30日（水）

■会場：Sands Expo & Convention Centre HallA～C（14,560m²）

※SusHi Tech Tokyo2024の展示エリアが約18,000m²、2025は約26,000m²

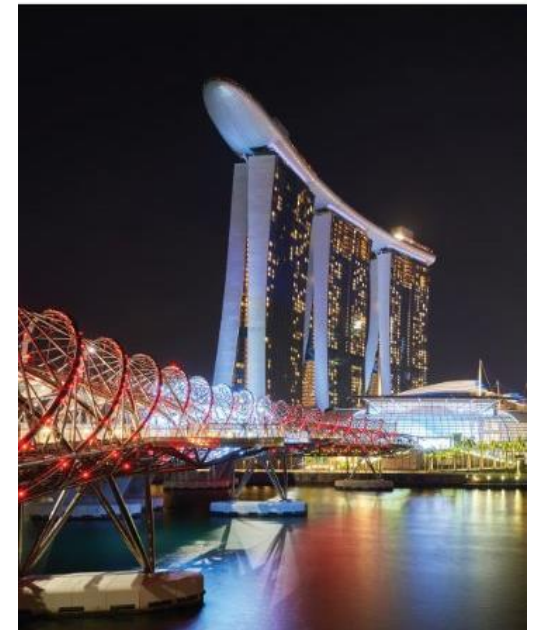
■特徴

- ・ヘルスケア・バイオメディカルサイエンス、スマートシティ・アーバンソリューション、トレード・コネクティビティ、持続可能技術等を展示
- ・2016年から開催されているイノベーションとテクノロジーの展示会であり、世界及びアジアのイノベーションエコシステムから、リーダー、起業家、クリエイター、アクセラレーター、投資家が参加。
- ・ディープテックスタートアップによるピッチコンテストを実施。

（参考） 2023年度実績

来場者数： 約15,000 人

出展社数： 約200社



SWITCHへの出展



会場の主な機能

- ・ ステージ× 5
- ・ ネットワーキングラウンジ× 2
- ・ インベスターラウンジ× 1
- ・ ビジネスマッチングエリア× 1
- ・ ミーティングエリア× 1
- ・ カフェ× 2
- ・ スタートアップ出展
- ・ 各国出展

Floor Plan



SWITCH（ステージ）

- メインステージ・グローバルステージは開放型。入口動線の近くにスタッフがあり、QRコードの読み込みをしているが、厳密ではない。立ち見であればだれでも見学可能
- AIMX・ビヨンド・マスターの3つのステージは閉鎖型。いずれのステージも入口でQRコードの読み込みが必要
- いずれのステージもスピーカーに合わせてほぼ同時に英語字幕が投影。内容のダイジェスト等もほぼタイムラグなくWEB上にアップロード（[GOH Opening Address – DPM Heng \(snapsight.com\)](https://snapsight.com/GOH-Opening-Address-DPM-Heng)）

メインステージ（座席300程）



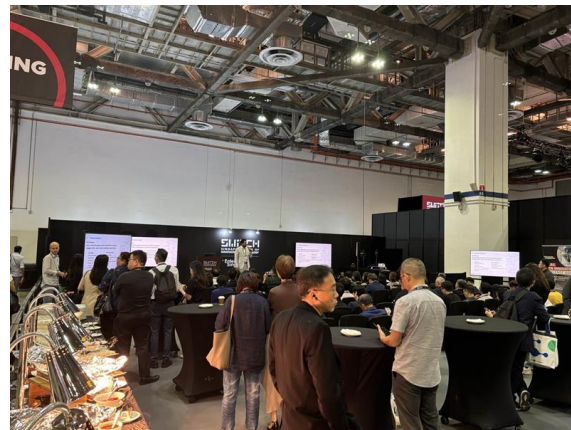
ビヨンドステージ（座席200程）



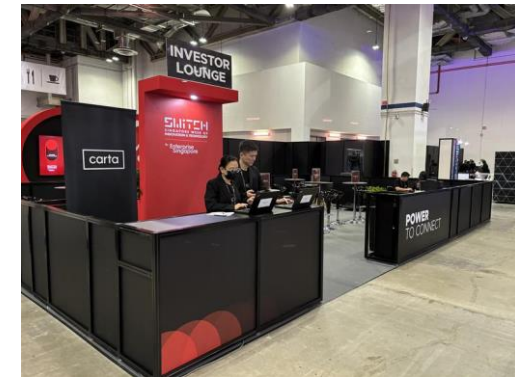
SWITCH（各種ラウンジ）

- ネットワーキングラウンジが2か所設置。常時稼働しているわけではなく、ランチタイムにフード込みのネットワーキングを実施していた
- インベスターラウンジは受付こそ設置されているものの、開放型。密な会話をするというよりはカジュアルな会話をするような雰囲気。個人ワークで使っている人も多かった

ネットワーキングラウンジ



インベスターラウンジ



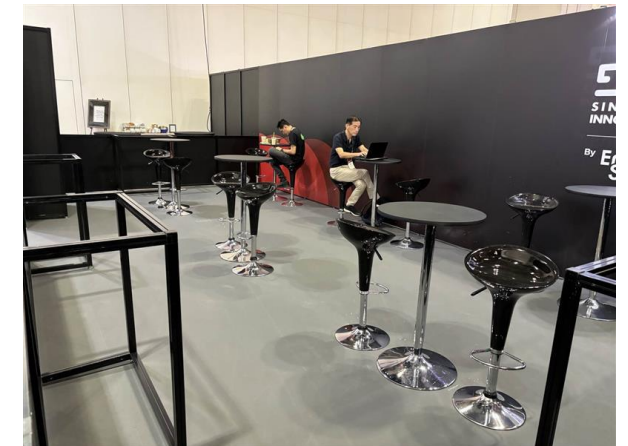
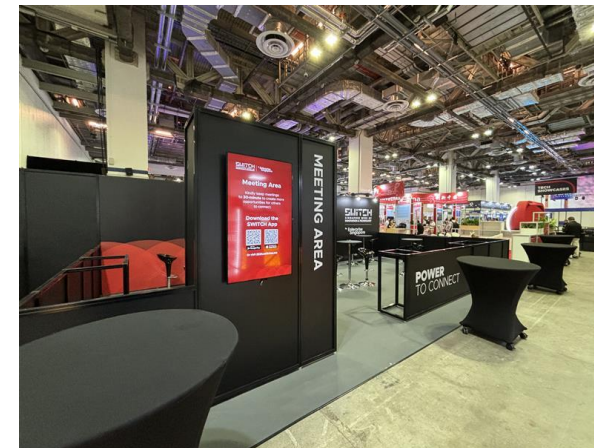
SWITCH（ビジネスマッチング・ミーティングエリア）

- ビジネスマッチングエリアも受付はあるものの開放型（10席程度）。アプリでミーティングをセッティングするとマッチングエリアの予約もできるように連動していた。
- ミーティングエリアも開放型（6席程度）。こちらは受付等なく対面やテレカンでも使用していた。ミーティングエリアとはいえ、電源がなく、会場の音も吹き抜けてくるため、テレカン等には不向き

ビジネスマッチング

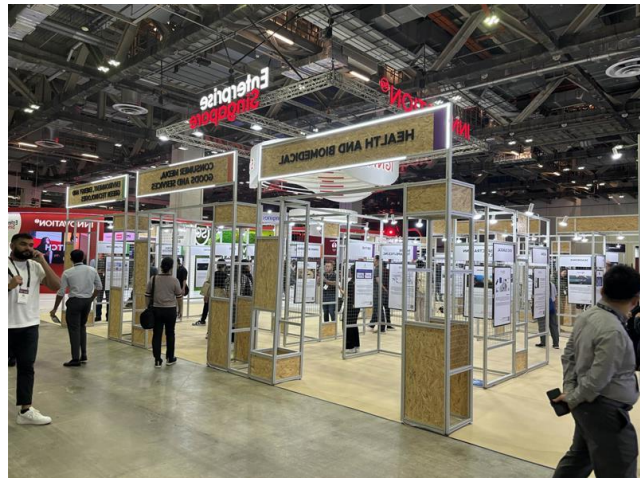


ミーティングエリア



SWITCH（シンガポールパビリオン）

- 中央にあるサークルモニュメントを中心として、SLINGSHOTファイナリスト50社のパネル展示、打合せ場所、商談ルームなどが併設。
- 広々としたパビリオンの特徴を生かし、シンボルアートの前では取材が行われていた



SWITCH (SusHiブース・ジャパンパビリオン)

- SusHi Tech Tokyoのブースは、グローバルステージ横の会場全体で見ると端の方だが、欧米系の展示会に比べて、足を止めて話を聞いてくれる人の割合が高い印象
- 日本は今回の海外出展国の中でも最大規模。東京以外にも全国各地の自治体等が出展



SWITCH（海外パビリオン）

- アジア・欧米・ブラジル・インド等の地域から出展。会場全体のおよそ1/3～半分程度が海外エリア
- 日本・韓国・台湾はかなり大型のサイズで出展。ドイツやイギリスはデザイン性に富んだパビリオンを出展しているものの、欧米はサイズが小さめの印象
- SusHi Tech Tokyoに比べて通路が狭く、ブースが密集している

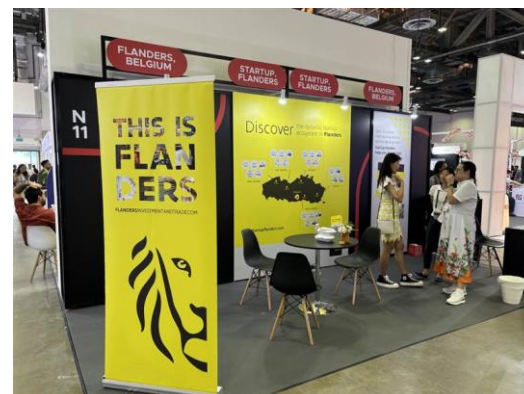
ドイツ



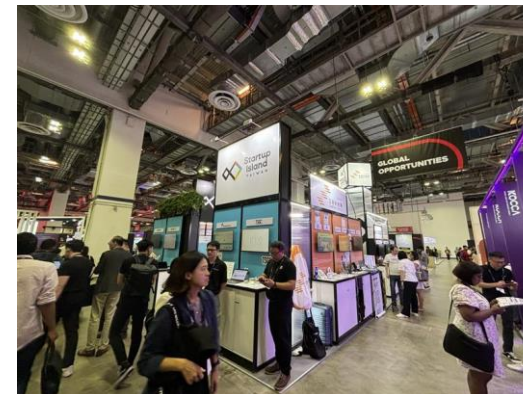
ブラジル



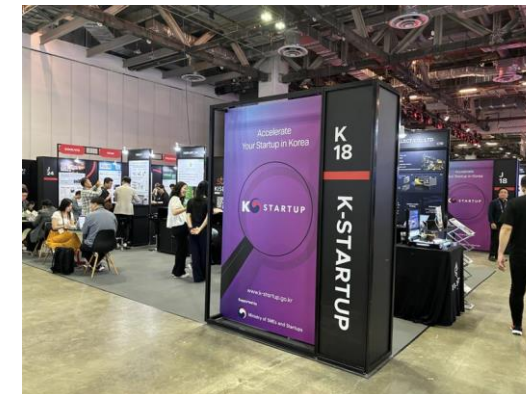
フランダース（ベルギー）



台湾



韓国



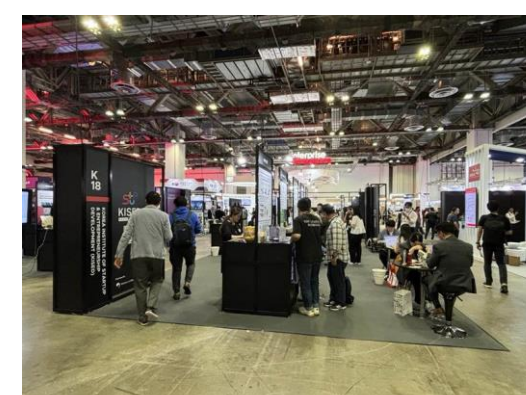
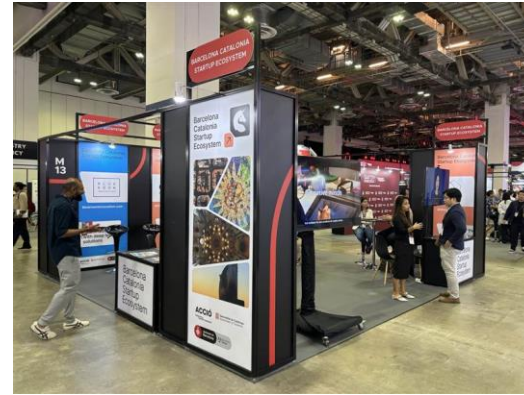
イギリス



中国

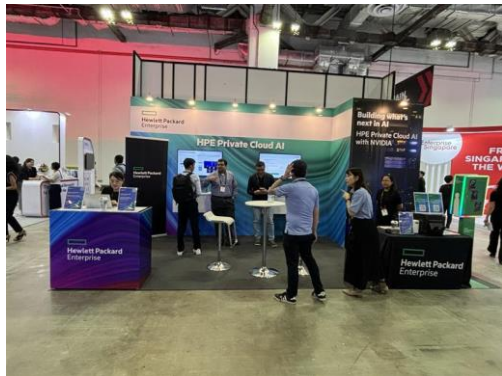


バルセロナ・カタルーニャ
（スペイン）



SWITCH（スタートアップ出展）

- スタートアップの個社での出展というよりも、大学や政府機関と一緒に出展しているケースが目立つ
- 国内大企業の出展はほとんどなく、目立つ大企業というとGoogleとLenovoくらい
- ロボットやプロダクトの展示は限定的



SWITCH（全体を通じて）

- ランチ時のネットワーキングや自国パビリオン内のインタビュー撮影、ピッチコンテストのファイナリストをまとめて展示する方法等、SusHi Tech Tokyoにも組み込んでいきたい
- 100席以上あるステージがおおよそ埋まっており、特に300席近くあるメインステージに常に立ち見が出ていた。会場が比較的コンパクトにまとまっている影響も大きいかもしれないが、アプリのプッシュ通知もよく届いており、2025でも集客の工夫をしていきたい
- 出展者も参加者にとっても、ミーティングスペースや休憩スペースの必要性を強く感じた。特に出展者は2～3日立ち続けることになるため、座ることのできるカフェスペースや充電のできるワークスペースはニーズが高いと思われる

